

今週の為替相場見通し(2018年11月26日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		112.30 ~ 113.25	112.98	112.00 ~ 114.00
ユーロ	(ドル)		1.1328 ~ 1.1472	1.1337	1.1200 ~ 1.1500
(1ユーロ=)	(円)		127.84 ~ 129.10	127.99	127.00 ~ 129.00
英ポンド	(ドル)		1.2765 ~ 1.2928	1.2820	1.2700 ~ 1.2950
(1英ポンド=)	(円)	*	144.03 ~ 145.95	144.74	143.50 ~ 146.00
豪ドル	(ドル)		0.7202 ~ 0.7325	0.7227	0.7150 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	81.20 ~ 82.63	81.69	80.50 ~ 83.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 菊池 雄太

(1) 今週の予想レンジ: 112.00 ~ 114.00 円

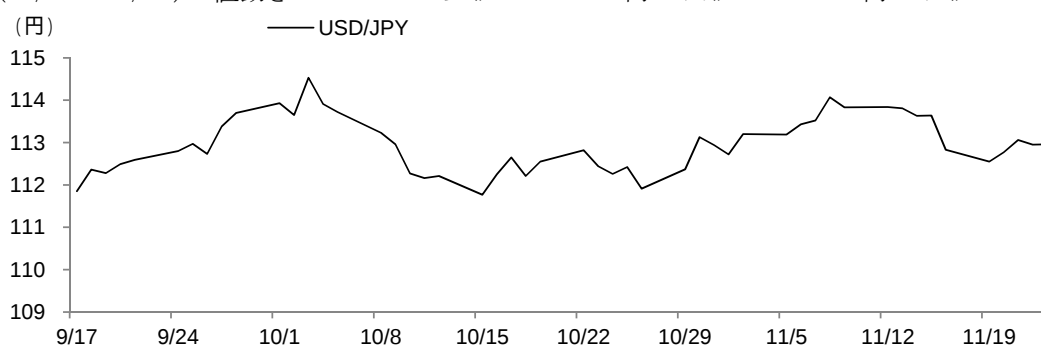
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は底堅い展開。週初19日に112円台後半でオープンしたドル/円は、先週末にクラリダFRB副議長が「米金融当局は政策決定に際して世界の経済成長を考慮に入れる必要がある」とハト派な発言をしたことが再び意識され米金利が低下。また、17～18日に開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)で首脳宣言の採択断念という異例の事態に陥るほど米中対立が改めて浮き彫りとなった。米中通商摩擦の激化に対する悲観的な見方を背景に米国株が下落の中で、ドル/円は112円半ばまで値を下げた。20日は株安地合いに、10月29日以来、約3週間ぶりの安値となる112.30円をつけた。ただ、米金利が反発したことやIT・ハイテク株の買い戻しを受け、一時500ドル超下落していたNYダウ平均が下げ幅を縮小する動きもサポート材料となり、112円台後半まで回復した。21日は欧州株の堅調推移や米金利上昇を横目に113円台前半まで上昇。「FRBが来年の春から利上げの打ち止めを検討」との観測報道などを受け、米金利低下と共に112円台に一時押し戻される場面も見られたが、前日からの米株安・原油安が一服したことなどから113円台で底堅く推移。22日はNY市場が感謝祭で休場となり様子見ムードが広がる中、113.15まで上昇し一時週高値をつける動きも見られたが勢いはなく、ドル/円は113円挟みで推移。23日は、東京市場が勤労感謝の日で休場となる中、海外市場で原油相場の下落が止まらないことや米株式市場の下落などから、リスク回避の動きとなり、ドル円は112.66円付近まで下落する場面も見られたが、112.98で越週した。

今週のドル/円相場は、上値の重い展開を予想する。不安定な株式市場や国際的なコモディティ価格の下落などを背景に、市場のリスクセンチメントの改善は難しそうである。この環境下、G20首脳会議が11月30日～12月1日にアルゼンチンで開催されるが、その前後トランプ米大統領と中国の習近平国家主席の両首脳が会談し、直接通商問題を協議する予定である。1年ぶりの首脳会談で貿易戦争の解決が図られるのではないかと期待感がある一方、水面下の調整では大きな進展が見られないとの報道もあり、今週はこの動向が大きな注目材料となりそうである。また、次回のFOMC(12月19日)で、利上げが見込まれているものの、利上げが見送りではとの話も出てきており、FRBの利上げペースに関心が集まっている。これを見る上でも、28日のパウエルFRB議長のニューヨーク経済クラブでの講演、29日のFOMC議事録やFRBが重視する米PCEデフレーター・の経済指標には注目したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/19～11/23)の値動き: 安値 112.30 円 高値 113.25 円 終値 112.98 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1) 今週の予想レンジ: 1.1200 ~ 1.1500 127.00 ~ 129.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

今週のユーロ/ドル相場はレンジ内での推移となった。週初19日に1.14台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米金利低下を受けたドル売りに1.14台後半まで上昇したものの、ブレグジットやイタリア予算案に係る懸念などから1.14台半ばを上値重く推移した。20日は一時週高値となる1.1472をつけたが、スペインのサンチェス首相が英EU 離脱協定の合意案について領土問題の条項が入っていないことに難色を示していることが伝わるとユーロ売り優勢地合いに転じ1.14台前半まで急落。加えて、イタリアの財政懸念からドイツ国債の利回りが低下すると、米欧の金利差拡大が材料視される中、一時1.1359まで続落した。21日は「サルベニー副首相が2019年のイタリア予算案見直しに応じる可能性がある」との報や米経済指標を受けたドル売りに1.14台前半まで値を上げた。しかし、欧州委員会がイタリアの来年予算案がEUルールを違反しているとの判断を正式に示したこともあり、ユーロ/ドルは1.13台後半までじり安となり、その後は米祝日を翌日に控え閑散とした値動きとなった。22日は、英国とEUの離脱合意案で自由貿易圏創設を見込むとのヘッドラインや離脱交渉の草案について大筋合意との報道からポンドが上昇し、ユーロも一時1.14台前半まで上昇するも、米祝日もあり1.14前半での小動きの展開。23日は、ドイツPMIが市場予想を下回ったこともありユーロは反落し週安値である1.1328をつけて越週した。

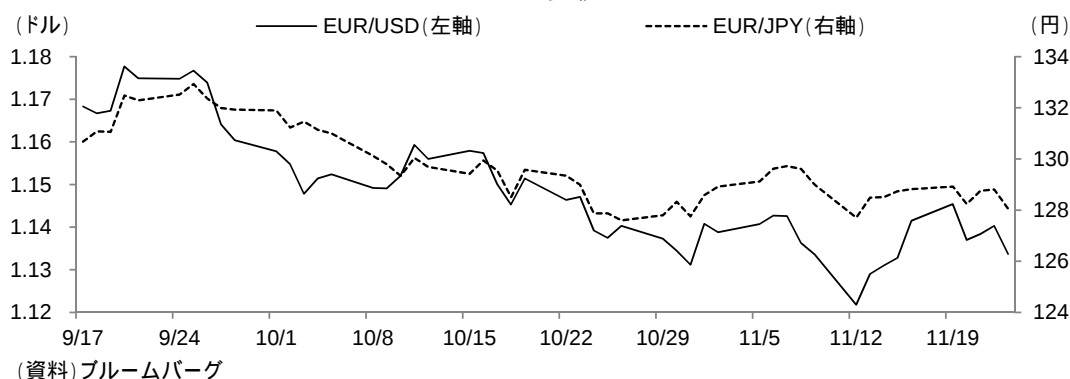
今週のユーロ相場は、上値の重い展開を予想する。EUとのブレグジット交渉が進んでいるものの、現状注目は英下院で最終的に承認されるか否かにシフトしており、この週末のEUとの正式合意について市場インパクトは少ないと考える。また、イタリアの予算案についての懸念も継続しているが、ドイツのPMIの数字の結果もユーロの上値を重くしており、現状ユーロの買い材料は乏しく上値の重い展開を予想している。しかし、米株の下落が続いており、FEDの利上げ姿勢に変化が出てくるとドル売りにつながることから、28日(水)パウエル議長講演や29日(木)FOMC議事要旨には注目。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/19~11/23)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1328 高値 1.1472 終値 1.1337

(対円) 安値 127.84 高値 129.10 終値 127.99



3. 英ポンド

欧州資金部 川田 夏生

(1) 今週の予想レンジ: 1.2700 ~ 1.2950 143.50 ~ 146.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、25日にEU臨時首脳会議を控える中、英EU離脱交渉の動向に左右され方向感なく推移した。与党保守党内からのメイ英首相不信任案の提出が懸念されており、当初早ければ週初にも提出される可能性もあると見られていたが、不信任投票のための必要人数(不信任投票実施には48通必要)には至らず、同懸念は一旦後退。週初のポンドはほぼ横ばいとなる1.2850前後でもみ合いとなった。英国内では、依然としてEU離脱合意案に対して政権・与党から修正を求める声が相次いでいるが、メイ英首相はEU合意案の修正には応じない考えを示しており、またメルケル独首相も合意案修正を拒否すると示唆していることから、EU・英国内の離脱交渉進捗が警戒されポンドは大幅に下落し、1.2765をつけた。22日には、EUが英EU離脱協定に原則合意し、将来的にアイルランド国境に係るバックストップ条項をより良く永続的な解決策に置き換えることを確認したと明らかにしたこと、またトラスEU大統領がEU離脱案は政治レベルで原則合意したと発言したことが伝わり、25日のEU首脳会議での正式合意への期待が高まったことでポンドは急伸、対ドルで1.2928、対円で145.95円と週の高値をつけた。その後、EUと原則合意に至った草案内容の開示を待ちたいとの見方や、スペインが英EU離脱後の英領ジブラルタルに係る取り扱いが曖昧なままであるならば反対票を投じると表明していることを受けて、ポンドは上昇幅を縮小したが1.2880前後の高値圏で推移した。その後は、23日公表の11月ユーロ圏及びドイツ、フランスのPMIが揃って市場予想を下回る結果となりユーロが急落、それにつられてポンドも下落し1.28近辺での越週となった。

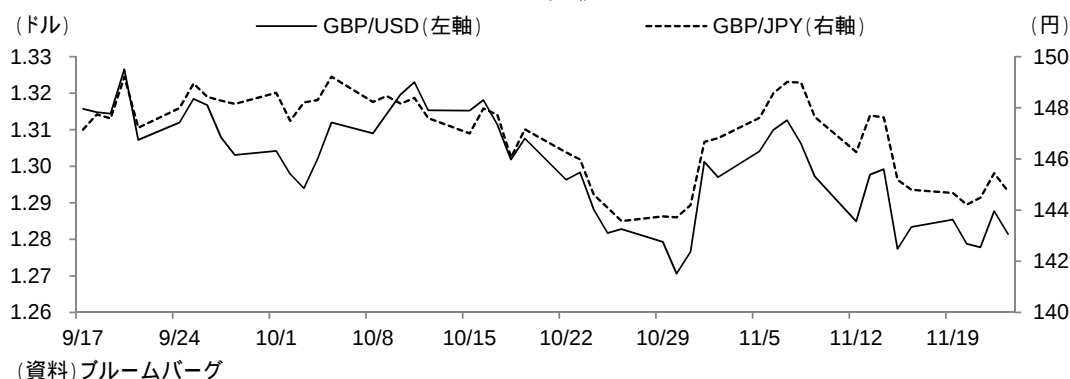
今週は、引き続き英EU離脱交渉の動向を注視しながら、ヘッドラインに振られる神経質な展開を予想。24日(土)のメイ英首相とユンケル欧州委員長との再度の会合やEU及び英国にて原則合意したEU離脱協定及び政治宣言について25日(日)EU臨時首脳会合での正式合意に至ればポンドは上昇するであろう。但し、EUと合意したとしてもメイ首相は同合意案について議会承認を得る必要があり、また議会承認は来月から2段階で行われる見通しであり、同議会が暫定合意している協定案への反対姿勢を崩していない中で承認の目途は立っておらず、先行きへの警戒感はいまだ根強い。議会承認が得られなければ、合意なき離脱やメイ首相の辞任、再度の国民投票実施といった事態となる可能性があり、EU離脱動向についての不透明感は更に増すことになる。今週のポンド相場について、引き続き、EU離脱に関するヘッドラインに振られる展開となると考える。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/19~11/23)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2765 高値 1.2928 終値 1.2820

(対円) 安値 144.03 高値 145.95 終値 144.74



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 0.7150 ~ 0.7350 80.50 ~ 83.00 円

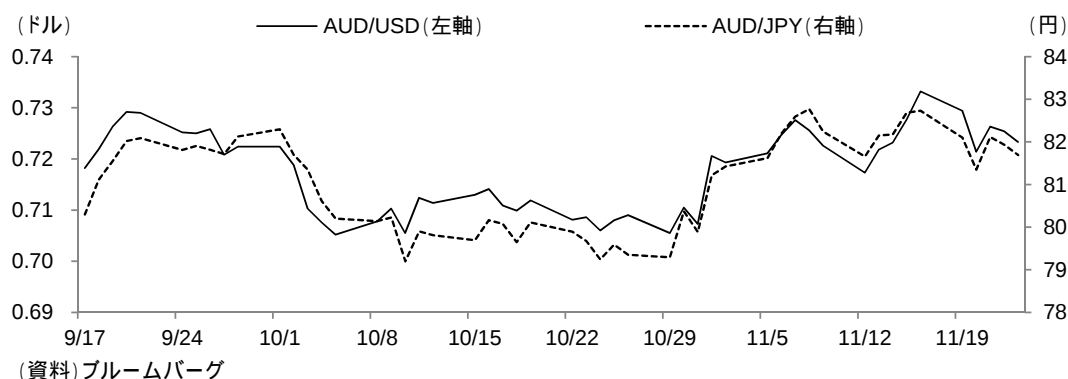
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は下落する展開となった。週初19日、0.73台前半で取引を開始した豪ドルは特段材料が無い中、小幅な値動きに終始。20日、豪州準備銀行(RBA)理事会議事録が公表され、「次の金利変更は下向きよりも上向きとの見方で一致」等の内容が示されたものの、相場への影響は限定的。またロウRBA総裁が講演で「豪州の失業率が4.5%まで下がる可能性」と言及したものの、こちらも特段材料視されなかった。しかしドルインデックスが上昇する中、豪ドルは軟調推移となり、日足一目均衡表の雲上限を下抜けると0.72台前半まで大きく下落。21日、週最安値0.7202まで続落するも、豪株や欧米株が底堅く推移する中、豪ドルも0.7278まで反発。22日、米国休日であることから市場参加者が減少する中、主だった指標の発表も予定されていないことから豪ドルは0.72台半ばでの小幅な値動きに終始。23日、本邦が休日であることに加え、NY市場では株式と債券が短縮取引となる中、原油価格が大幅に下落し、世界経済の減速懸念から豪ドルは上値重く推移。結局0.7219まで下落し、0.7227で越週した。また週初19日、82円台半ばで取引を開始した豪ドル円は、20日に上述の通り対ドルで豪ドルが大きく下落すると豪ドル円も81円台半ばまで連れ安の展開。21日には週最安値81.20円まで続落するも、上述の通り豪ドルが買われる中、豪ドル円は82円台まで反発。22日と23日は日米が休日となる中、81円台後半での推移となり、81.69円で越週した。

今週の豪ドル相場は今週末の米中首脳会談を前に様子見ムードから横ばい推移となろう。同会談は米国と中国の貿易戦争が深刻化してから初のトップ会談であることから注目度は非常に高い。会談結果が貿易戦争を緩和させるものであれば豪ドルに買い圧力が働き、会談で合意できなければ売り圧力が働くだろうが、今週は同会談を控えて上下どちらにも動きにくい展開となろう。また先週、RBA議事録の公表とロウRBA総裁の講演で「失業率は顕著に低下する可能性」や「賃金の伸びはさほど加速することはないものの、豪州失業率が4.5%に下がる可能性がある」との見解が示された。現在の失業率は約5.0%と6年半ぶりの低水準であり、さらなる失業率の低下が予想されたことは豪ドルに対してポジティブであるが、賃金の伸びが明確に見えてこない中では豪州経済への楽観的な見方から豪ドル買いの流れになる可能性は低いだろう。今週の豪ドル相場はイベント待ちの中、動意に欠ける展開を予想する。今週の重要イベントは26日(月)にRBAロウ総裁の講演と30日(金)の民間部門信用の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/19~11/23)の値動き: (対ドル) 安値 0.7202 高値 0.7325 終値 0.7227
(対円) 安値 81.20 高値 82.63 終値 81.69



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。